

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ(動作分析)

当施設リハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

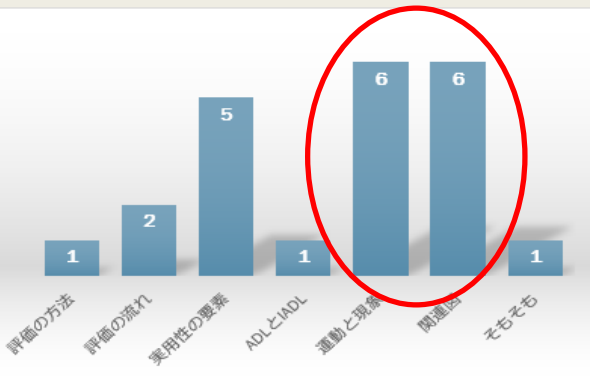
《年間目標》
・動作分析におけるリハビリスタッフの共通認識、知識を深める。
・トップダウン評価の流れを理解する。
・動作分析班で動画によるディスカッションを定期的に行う。

●構造 structure
①トップダウン評価の流れを知り、動作分析における共通認識を深める。
②動作分析班内で利用者の動作を観察・分析し知識、認識を深める。

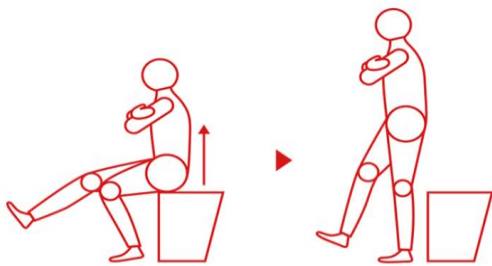
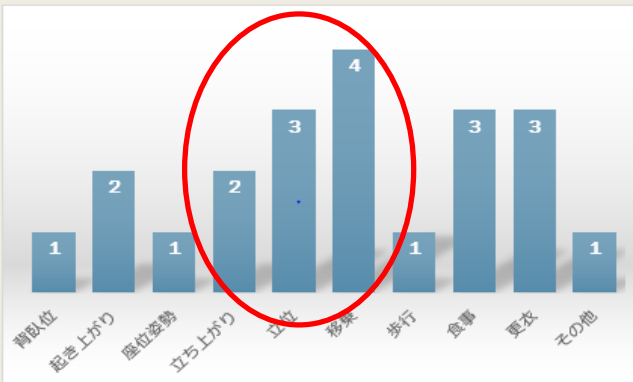
●過程 process
①リハビリテーション部内におけるアンケートを実施し、動作分析に対する各職員の特徴を知る。
②毎月、担当を決め困難症例の動画を共通する。

●結果 outcome
①アンケートの結果に合わせて動作分析の勉強会を行う予定。(延期となり非実施)
②症例数は少ないですが、入所、通所、訪問部の自分の担当する症例の意見を共有出来ました。

動作分析について知りたい事はありますか。



どの動作について知りたいですか。



勉強会では
立ち上がりの関連図を
グループで作成する予定でした。

《次年度持ち越し課題》
動作分析班以外からの困難症例の動画収集・共有・フィードバック方法の検討
改善症例や実際の動作模倣練習等の動画のみでなく、更なる理解を深めていく。